

依存が深刻になっていきます。お父さんもお母さんも毎日お仕事で忙しいです。あまりに忙しすぎるのでしょうか。自分のことで精一杯になるのでしょうか。気に入らなければわが子さえ邪魔と考える人間が現れる時代になってしまいました。子どもの将来を願い、慈悲心をもって子どもを抱きしめる慈母観音さまよりも、「しつけ」と称して子どもを叩いたり、放置してご飯をくれなかったり、部屋に閉じ込めたりする鬼のような父や母が出現するおぞましい世の中になってしまいました。

昨年は大きな自然災害が相次いで日本を襲った年でした。西日本豪雨災害、台風二十一号、北海道胆振東部地震などの大きな自然災害により、多くの人々がお亡くなりになりました。家族を亡くした皆さまの悲しみが伝わってまいります。家が土砂に埋まり、水に漬かり、壊れて使えなくなってしまった方々の苦しみが伝わってまいります。

苦しみや悲しみの心を共有し、おもいやり、助け合

いの心を誰もが持つっていると信じます。連帯の心を大きなものにいたしましょう。隣近所や地域のつながりを強くしようとする努力をいたしましょう。お互いのお互いの力を強めましょう。

『南無大慈大悲観世音菩薩』

どうか、災害にあつて悲しみ苦しむ人々を、虐待をされる子どもたちを、虐待をする親たちを、苦しむ家庭を救ってください。そして正しき道に導きたまわんことを。



合掌

## 仏教法話

—心のひかり・人生のしるべ—

# 南無観世音菩薩



## 観音さま

観音さまはおやさしいお母さまのような仏さまであられます。本当のお名前は観世音菩薩さまと申します。お母さまを幼子が「かあちゃん」とか「ママ」と呼ぶように『観音さま』とお呼び申し上げるのは、私たちがお母さまのように親しくおすがり申し上げたい信心からであります。観世音菩薩さまとは、そのお名前のとおり、この世の苦しみや、悲しみや、人びとの願いを觀察され、お母さんが赤ちゃんの泣き声を聞けば、すぐその音声に<sup>こた</sup>応えて赤ちゃんの願いをかなえてくださるように、私たちが『南無観世音菩薩』とそのみ名を唱え念ずれば、必ずその声に応じてその時その人に適應するように三十三に身を分けて現れたまい、すべての人々を導き救ってくださる大慈悲心の菩薩さまであられます。私たちの一生である人生はさまざま苦難に満ちています。思わぬ不幸に出あったり、重い病

願って下さり、人の子の迷いを救ってくださるのです。

## 母こそは観音さま

「十億の人に 十億の母あれど わが母にまさる母 あらめやも」という歌があります。その子にとってその子の母はただ一人であるからであります。どんな立派な他人のお母さんよりも、自分にとっては自分のお母さんにまさるお母さんはありません。わが子をいつくしむ母心こそ観世音菩薩さまであるからであります。日本が生んだ大医学者野口英世博士のお母さんは、博士が赤ん坊のときに、いろりにころげ落ちて大やけどをして、指が開かなくなってしまうことを悲しんで、冬の夜更けにただ一人村の観音堂に通い、不具となったわが子が、学問で身をたてられるようにと願をかけられました。その母の一心の信仰が観音さまに通

気にかかったり、悲しい災難にあったり、苦しい困難にぶつからねばなりません。心配ごとで心も落ち着かぬ不安におそわれることもあります。そのときは「南無観世音菩薩」と一心に唱え念じましょう、すると、父が手をさしのべるように、母が子を胸に抱くように観音さまは必ず救ってくださるのです。

ところで観音さまのおつむりにはその冠の中にお釈迦さまがおまつりしてあります。それは、観音さまのご本体はお釈迦さまであって、観音さまはお釈迦さまのご化身として、生きとし生ける衆生を吾が子のようにいつくしみお救いください。この世のお母さまであられるのです。そうすればお釈迦さまはこの世のお父さまになぞらえられるでしょうか。お釈迦さまのお父さまは、正しい仏法、すなわち宇宙の理法に基いて、人としての道を示しておられますから、まちがったことは因果の理法によって厳しくお叱りになられます。このとき観音さまのお母さまは、やさしくそのあやまちをたしなめ、お釈迦さまのお父さまにおゆるしを

じたのでしよう。野口英世博士は世界人類の病苦を救う大医学者となりました。野口英世博士がアメリカから帰ったときに、まさきにお母さんは博士をともしない村の観音さまにお礼のお詣りをされたそうです。『西ラムイテモオガンデイマス、東ラムイテモオガンデイマス、南ラムイテモオガンデイマス、北ラムイテモオガンデイマス』とつたない文字でつづった、野口英世博士のお母さんの手紙こそは、この世の母のまことであり、そのまことの姿こそ観音さまであります。

## 南無観世音菩薩

現代の日本は、野口英世博士が生活した時代とは大きく変わりました。人々の価値観は変わりました。生活様式も変わりました。家庭は少子化、核家族化に進んでいます。人々のつながりは薄れています。スマートフォン<sup>スマートフォン</sup>の急激な普及により中高生にインターネット